
コンプレックス

貂寡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コンプレックス

【Zコード】

Z9877F

【作者名】

貂寧

【あらすじ】

私は臆病・・・私は怖がり・・・そんな私は恋をする

ずっと思っていたんだ。

スッゴクスタイルが良くて、スッゴク美人だつたらどんなに幸せだ
口うつて。

小学生の頃からずつとバカにされてきた。太つてて、しかも理想が
高くてバスだつて、ずっとと言われてきた。

今となつても覚えてる。ずっと虚められた、はねにされた。だけど
中学生になつて恋もした。好きになつた。だけど・・・怖かつた、
バスなのに好きになつた私は怖かつた。

それも昔の思い出。だけど変わらないのは私のバスさとデブさ。け
ど高校に入つて変わらうと思つた。

痩せよう、

そんな矢先に彼と出会つた。肌が白くて唇と頬はほんのり赤く色付
いた顔立ちだつた。恋なんてもう信じてなかつた、怖い思いもした
くなかった。

私は臆病なんだ。

だけど、好きになつていた、いつの間にか目で追うようになつてい
た。

なんでだろう、恋なんてしたくなかった、怖い、バスとかデブつて
言われるよりもずっと、この気持ちに感付かれる日を待つのが怖い。
私の目には彼しか映らない。いつの間にかそんな日が続いていた。
ある日友達が言つた、彼を好きな人が私意外にもいるんだつて・・・
その事を聞いて臆病な私は諦めようとした、だけど恋した気持ちは
抑えられない。

今こうなることを知つていたら・・・

私はあの時、彼から手を引いていたら良かつたのにと後悔だけが残
された。

男友達に私の気持ちを話して見ることにした。

すべてを話終えると気分が楽になった。

しかし完全には消えなかつた。

彼にメールを送る。ただそれだけの作業が私にはできない。
どうしたら良いのかもわからない。

送信ボタンを押した時もうどうなつても良いと思つた。

臆病な私が吹つ切れた時だつた。

着信を知らせる音が部屋に鳴り響き、寒くなつた中町を車が走る音
だけが残る。

メールにはこう書かれていた。

『ふーん。でその人のアドが知りたいわけだ!』

着信の重さにも増してこの言葉は私に響いた。

洗いざらい話した私にはもう好きな人のアドを聞いてメールするし
か手段が残されていなかつた。

『うん。』

こう送ることが私の思いと思つた。

私は臆病で何をするにも道が要る。友達にメールするのでさえ勇氣
がいる。

『これアド。』

アドが貼られたメールが届いた。

『ありがとう。』

こうおわらせるメールも何通目だろう。

アドを手に入れたとしても、私はバスでデブさ。だから相手にして
くれる人もいない。

今メールを作成しようと携帯を開いた。しかし、携帯を閉じる。

何時も逃げてしまつ私・・・

これからどうすれば・・・戸惑いと淡い恋だけが私の心に浮き沈み、
アドは携帯に眠つて行つた。

私は臆病・・・

だから知りたくない

だから聞こえない

君の本音

私の本音

(後書き)

実話のよつなよつでないよつなるよくある・・・のか分かりませんが
私的には有りそうな話でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9877f/>

コンプレックス

2010年11月14日09時40分発行